

環境に優しいエコドライブは愛車の点検・整備から。

地球環境とクルマのトラブルを防ぐために日常点検や定期点検をきちんと行っていますか。特に長くご使用のクルマには、細やかなケアが必要です。日頃の点検で愛車の健康管理を心がけましょう。

日常点検

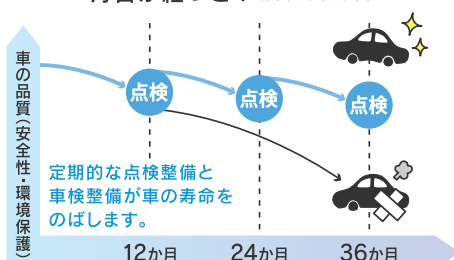
日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検を行うことが必要です。チェックしてみましょう。

定期点検

定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、自家用乗用車については1年ごとに実施しなければなりません。

車検（自動車の検査）は、安全・環境面で国が定める基準に適合しているかどうかを一定の期間ごとに確認するものであり、次の検査までの安全性等を保証するものではありません。したがって、使用者は日常点検整備や定期点検整備を確実に実施するとともに使用に応じた適切な保守管理を行う必要があります。

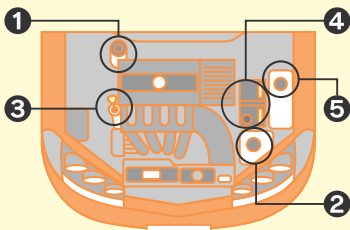
月日が経つと？（自家用乗用車）



マイカーを点検しよう! 日常点検 15項目チェックシート

判定 ○ or ×

日常点検 #01



エンジンルーム 5項目



1 プレーキ液の量

ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。液量が下限ラインより低い場合は、安易に補充せず、早急に整備のプロに相談しましょう。



2 冷却水の量

冷却水のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下限ラインに近いが、それより少ない場合は、上限ラインまで冷却水を補充しましょう。



3 エンジン・オイルの量

エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭きとってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端についている2本のラインが、ギザギザ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。



4 バッテリー液の量

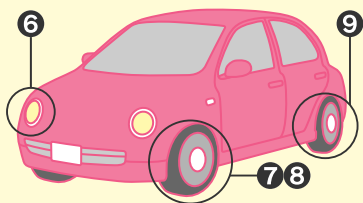
バッテリーの液量が規定の範囲（上限と下限の間）にあるかを車両を揺らすなどして点検します。バッテリー液は腐食性が強いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。



5 ウィンド・ウォッシャー液の量

ウィンド・ウォッシャー液の量が適当かを点検します。液量が少ない場合は上限まで補給しましょう。

日常点検 #02



外回り 4項目



6 ランプ類の点灯・点滅

クルマにはヘッドライト、スモールランプ、ブレーキランプ、テールランプ、ウィンカーなど、多くのランプが付いています。点灯・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。



7 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの亀裂や損傷の有無を手で確認するとともに、タイヤに異物が付着していないかを入念に点検します。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。



8 タイヤの空気圧

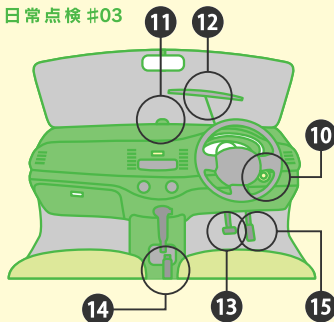
タイヤの接地部のたわみ具合を目で判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができなければタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。



9 タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さが浅くないかをタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、現れます。溝の深さが足りないと、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが現れたら、早急にタイヤを交換しましょう。*スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出現します。

日常点検 #03



運転席 6項目



10 エンジンのかかり具合・異音

エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。



11 ウィンド・ウォッシャの噴射状態

ウィンド・ウォッシャー液を噴射させ、ワイバの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さが適当かを点検します。



12 ワイパーの拭き取り能力

ワイパーを動作させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウィンド・ウォッシャー液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパーのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウィンド・ウォッシャー液を噴射してからワイパーを動作させましょう。



13 プレーキの踏みしろときき具合

エンジンをかけて異音がないかどうか確かめたら、ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだとき、床板との間（踏みしろ）が適当かどうか確認します。また、その踏みこたえがいつもと違うと感じたら要注意です。踏みこたえの違いの判断は、新車時や定期点検直後のブレーキ・ペダルのフィーリングで判断するといでしょう。



14 駐車ブレーキの引きしろ（踏みしろ）

駐車ブレーキをいっぱい引いた（踏んだ）ときに、引きしろ（踏みしろ）が多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェックします。ブレーキ・ペダルと同様に、新車時や定期点検直後の違いを比較してください。



15 エンジンの低速・加速状態

エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。

※自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。